

【滝の恩恵に応えるために僕にできること】

茂原市立茂原中学校 三年 高原 權真

僕は小さい頃からボート遊びが好きで、大人も乗れるゴムボートに家族を乗せて、漕いで周ったりしていました。よくボートを出しに行くのは、溪谷にある滝つぼです。幅の広い大きな岩の表面に沿って、川がそのまま落ちてきているように流れる滝の姿は、見ていると時間を忘れるほどの美しさです。滝のすぐ近くにボートを着けると、絶え間ない水音と、水しぶきをたつぷり味わうことができます。ボートから水の中を覗き込むと、小さな魚たちが素早く泳いでいるのも見飽きません。

ところが数年前のある日、滝つぼの様子が違っていました。滝の幅は僕が両手を広げたくらいの狭さになってしまい、滝つぼの水もいつもの透明さがなく、淀んでいました。それでも僕はボートを出しました。いつものように漕いで滝つぼを周りますが、いつもの音も水しぶきもなく、この場所が病気になってしまったかのように感じました。僕はがっかりして、早々に帰ることにしました。帰り道で「なんで今日の滝はこんな状態だったのだろう」と心配になりました。

その日、家に帰って調べてみたら、あの滝は水源から近いので、安定的な雨量がないとあのような状態になりやすいということがわかりました。確かにここ最近、雨が降っていませんでした。しかし、何年もある滝に通っていて、今までにあれほど停滞している様子の滝は見たことがありませんでした。そこでさらに調べると、全国的に、年間の傾向として、大雨や短時間強雨の回数は増えているが、降水の日数は減少していることがわかりました。つまり年単位で考えると、以前に比べて、滝への安定的な雨量が保たれにくく、それゆえ、水量の減った状態が多く発生してきていることが推測できました。

ということは、これからも滝が今日のような水量である日も少なくないのかと思うと、がく然としました。僕にとつて、あの滝つぼで、水しぶきを浴びながらボートに乗ることは、大切なリフレッシュ方法だった

からです。あそこで暮らす小さな魚たちにとつても住環境として重要な課題ではないかと思いました。すると、なぜ年間の降水の日数が減ってきているのだろうかという疑問が湧いてきました。

調べていくと、この降水パターンの変化は地球温暖化に一因があるのではないかとの記述があり、僕は今までで一番、地球温暖化の問題を身近に感じました。地球温暖化について、温室効果ガスの削減を目的に、自分にできる対策をしてきたつもりでした。でもそれは、その方がいいだろうと曖昧に選択した行動でした。僕はなるべくいつも豊かな水量の滝であつてほしいという明確な目的意識を持ち、自分自身の地球温暖化対策のレベルを一段階あげることがその日決意しました。それは生活のあらゆる場面で「もつたいたい」を意識した生活を送ることです。

数年たった今も僕は、「もつたいたい」を意識した生活が続いています。電気も水も作ることで温室効果ガスが発生します。だから必要な分を大切に使います。食品を捨てるとそれらを燃やすことで温室効果ガスが発生するので、食べられる分だけよそいます。恵みである雨水は溜めて、プランターに使います。その他にも自分の生活に「もつたいたい」がないかを考えて生活しています。少しでも地球温暖化を抑制して、豊かな水量の滝つぼを守りたいから。

僕の実践も数年経ちましたが、滝の様子に驚いたあの日以降も、水量が少ない状況を何度か見えています。でも、今の僕のためだけでなく、将来の僕や、滝に恩恵を受けるすべての地球上の生き物のために、僕は僕の実践を続けていきます。そうしていると、豊かな水量の美しい滝の姿を見られた時には、当たり前ではない、そのありがたみを感じることができ、それが励みにもなっているからです。